IPA 情報発信第 146 号（2016 年 6 月）

2016 年 6 月 30 日
独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
理事長 富田　達夫

＜IPA 情報発信第 146 号の内容＞

Ⅰ．今月のトピックス

１．米国の標準化団体「IEEE-CS」との相互協力協定を締結及び「iCD セミナー」を開催（開催案内）

米国の標準化団体である「IEEE-CS」との相互協力関係を構築するため、グローバル・アライアンス・メンバーに関する覚書を締結しました。また、7 月 12 日（火）にニッショーホールで、「IT を駆使したグローバル競争力強化のために～iCD を用いた経営改革の実現と情報セキュリティ施策～」をテーマとし、基調講演に IEEE-CS の Vice President であるアンディー・チェン氏を迎え、セミナーを開催します。

２．「企業における情報システムのログ管理に関する実態調査」報告書を公開

企業における情報システムのログの管理実態を把握し、最適なログ管理の指針を提案するため、「企業における情報システムのログ管理に関する実態調査」を実施し、その報告書を 6 月 9 日（木）に公開しました。

３．2016 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」採択プロジェクトを決定

本年度より PM を 2 名追加し、多様な可能性のあるプロジェクトを採択しました。また、クリエータの中には IPA が実施しているセキュリティ・キャンプの修了生が 5 名、一昨年から連携をしている U-22 プログラミング・コンテストの受賞者が 1 名含まれ、これらの IT 人材育成に関連する事業で育成されたクリエータ達が、未踏事業に挑戦し結果を出しています。

Ⅱ．セキュリティセンター

１．重要なセキュリティ情報（6 月）

Ⅲ．ソフトウェア高信頼化センター（SEC）

１．九州大学にて特別講義を実施
２．「第 3 回 DEOS 協会オープンシンポジウム」にて講演
３．「平成 28 年度宮城県高度情報化推進協議会講演会」にて講演
４．「AgileJapan2016　高松サテライト」にて講演
５．「第 7 回 SMA オープンセミナー」にて講演
６．SEC セミナー開催報告（6 月）および開催案内（7 月）

Ⅳ．国際標準の推進

１．「活用が広がる『共通語彙基盤（IMI）』」の開催報告

Ⅴ．IT 人材育成

１．「i コンピテンシ ディクショナリ 2016」などを公開
２．ITPEC 試験問題選定会議の開催
３．平成 28 年度春期情報処理技術者試験（応用情報技術者試験、高度試験）の合格発表について
４．平成 28 年度秋期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を 7 月 11 日（月）から開始

Ⅰ．今月のトピックス

１．米国の標準化団体「IEEE-CS」との相互協力協定を締結及び「iCD セミナー」を開催（開催案内）

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：秋元）

IPA は 6 月 10 日（金）に、米国の標準化団体である「IEEE-CS[1]」との相互協力関係を構築するため、グローバル・アライアンス・メンバーに関する覚書を締結しました。

IEEE-CS では、企業の IT 部門向けの知識体系となる EITBOK[2]の策定を進めていますが、その中で海外の代表的なスキル標準[3]との関係性を整理しており、IPA が提供する「i コンピテンシ ディクショナリ（iCD）」にも協力依頼がありました。

IPA は本プロジェクトへの協力を通じ、iCD と海外のスキル標準との相互参照関係強化やグローバル化促進を図るとともに、IPA が実施する幅広い分野の事業において、相互の協力が進んでいくことを期待しています。

また、IPA は、7 月 12 日（火）にニッショーホール（東京都港区）で、「IT を駆使したグローバル競争力強化のために～iCD を用いた経営改革の実現と情報セキュリティ施策～」をテーマとしたセミナーを開催します。

本セミナー基調講演では、IEEE-CS の Vice President であるアンディー・チェン氏を迎え、グローバル化の中での IT 人材育成に関するご講演をいただくとともに、iCD の最新動向や活用事例などを紹介する予定です。IT 人材育成に係る皆さまの幅広いご参加を期待しています。

「IT を駆使したグローバル競争力強化のために」セミナーの詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/event_20160712.html

２．「企業における情報システムのログ管理に関する実態調査」報告書を公開

（担当理事（本部長補佐）：頓宮、担当センター長：江口）

IPA は、企業における情報システムのログの管理実態を把握し、最適なログ管理の指針を提案するため、「企業における情報システムのログ管理に関する実態調査」を実施し、その報告書を 6 月 9 日（木）に公開しました。

本調査では、ユーザー企業におけるログ管理の実態をヒアリングし、その結果から主だった情報漏えいの原因別に必要なログの使途を整理し、ログ管理製品のタイプ別に適否を整理しました。また、ヒアリングした大企業と中小企業の違いには「明確な目

---

[1] IEEE-CS：Institute of Electrical and Electronics Engineers-Computer Society（アメリカに本部を持つ電機・電子技術の学会である IEEE 内に設置された Society の一つ。）

[2] EITBOK：Enterprise IT Body of Knowledge

[3] iCD の他に、英国 SFIA ファンデーションが提供する SFIA（Skills Framework for the Information Age）、欧州標準化委員会が提供する e-CF（European e-Competence Framework）が掲載される予定。

的と準備」によるログ管理を実施する大企業と、そうでない中小企業の姿が浮かびあがりました。そこでログ管理の目的を明確にし、かつ実装レベルによる対策状況を4分類した“ログ管理製品の実装レベル”をまとめました。

「企業における情報システムのログ管理に関する実態調査」報告書の詳細については、次のURLをご覧ください。

https:// www.ipa.go.jp/about/press/20160609.html

3．2016年度「未踏IT人材発掘・育成事業」採択プロジェクトを決定

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：小池）

IPAは、2016年度「未踏IT人材発掘・育成事業（未踏事業）」の公募採択の結果を6月15日（水）に公開しました。

応募のあった提案テーマについて、プロジェクトマネージャー（PM）がそれぞれの審査基準に基づき独自の観点で採択候補を審査・選定し、未踏事業審査委員会での審議結果を踏まえ16件のプロジェクト（クリエータ数：31名）を採択しました。当該事業は2016年度よりPMを2名追加し、これまでより更に多様な可能性のあるプロジェクトを採択したところです。また、クリエータの中にはIPAが実施しているセキュリティ・キャンプの修了生が5名、一昨年から連携をしているU-22プログラミング・コンテストの受賞者が1名含まれ、これらのIT人材育成に関連する事業で育成されたクリエータ達が、未踏事業に挑戦し結果を出しています。

2016年度「未踏IT人材発掘・育成事業」の採択結果の詳細は、次のURLをご覧ください。

https://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2016/20160615.html

Ⅱ．セキュリティセンター

1．重要なセキュリティ情報（6月）

（担当理事（本部長補佐）：頓宮、担当センター長：江口）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報[4]」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身

[4]「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。
「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。
「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。
6 月は、「緊急」3 件、「注意」2 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。
https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html

Ⅲ．ソフトウェア高信頼化センター（SEC）

１．九州大学にて特別講義を実施

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、6 月 7 日（火）に九州大学大学院（福岡県福岡市）の特別講義「システム情報科学府 組込みシステム特論」において「組込みシステム障害未然防止のための体験型ワークショップセミナー　演習」というテーマで講義を実施しました。

講義では IPA が推進する、組込みシステムの障害事例を分析し、そこから得られた障害の未然防止策を「教訓」として体系化し、共有するノウハウを演習形式で体験してもらいました。

当日は 25 名の大学院生に参加いただき、参加者からは「今回学んだ考え方はソフトウェア開発の場面以外でも役立つと思った。今後、実際に現場でソフトウェアを開発する際にこの考え方を生かしていきたい」といった意見をいただきました。

IPA では、これらの意見を踏まえて今後も組込みシステムの障害対策の普及活動を継続していきます。

２．「第 3 回 DEOS 協会オープンシンポジウム」にて講演

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、6 月 8 日（水）に慶応義塾大学　日吉キャンパス（神奈川県横浜市）で行われた「第 3 回 DEOS 協会オープンシンポジウム」にて講演しました。

本シンポジウムは、一般社団法人ディペンダビリティ技術推進協会（DEOS 協会）の主催による、IoT 時代に向けたシステムのディペンダビリティ[5]に関する最新の技術・市場動向について講演と討論を行うもので、IPA は「IoT 時代のディペンダビリティ」をテーマとした技術討論に司会およびコメンテータとして参加しました。

当日は 77 名の方に参加いただき、参加者からは「技術討論でのディペンダビリティ技術の活用事例が興味深かった」といった意見をいただきました。

IPA では、今後も関連団体との連携の下、ディペンダビリティに関する技術の普及活動を継続していきます。

「第 3 回 DEOS 協会オープンシンポジウム」の詳細については、次の URL をご覧ください。
http://deos.or.jp/event/symposium-20160608.html

[5]安全性、信頼性、セキュリティなど、利用者が安心して製品やシステムを利用し続けるために必要な要素の総称。

３．「平成 28 年度宮城県高度情報化推進協議会講演会」にて講演

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、6 月 9 日（木）に宮城県庁（宮城県仙台市）で行われた「平成 28 年度宮城県高度情報化推進協議会講演会」にて講演しました。

本講演会は、宮城県高度情報化推進協議会の主催による、宮城県内の団体、企業等が抱える ICT 分野の課題・問題点の解決のヒントを得ることを目的としたもので、IPA は「IoT と日本を取りまく現状」というテーマで講演を行いました。

当日は 52 名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPA では、今後も IoT 時代に向けた取組みの地域への普及活動を継続していきます。

「平成 28 年度宮城県高度情報化推進協議会講演会」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.pref.miyagi.jp/release/ho20160530-5.html

４．「AgileJapan2016　高松サテライト」にて講演

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、6 月 25 日（土）に情報通信交流館 e-とぴあ・かがわ（香川県高松市）で行われた「AgileJapan2016　高松サテライト」にて講演しました。

本イベントは、Agile459（四国）の主催による、日本国内のアジャイル開発[6]の事例やノウハウの共有を目的とするもので、IPA は「進化するアジャイル，IoT 時代のビジネスを担う」というテーマで講演を行いました。

当日は学生を含む 50 名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPA では、今後もアジャイル開発の地域への普及活動を継続していきます。

「AgileJapan2016　高松サテライト」の詳細については、次の URL をご覧ください。

https://agile459.doorkeeper.jp/events/44273

５．「第 7 回 SMA オープンセミナー」にて講演

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、6 月 28 日（火）にちよだプラットフォームスクウェア（東京都千代田区）で行われた「第 7 回 SMA オープンセミナー」にて講演しました。

本セミナーは、一般社団法人スキルマネージメント協会の主催による、同協会の人材育成に関する活動報告と関係機関の取組み紹介を行うもので、今回は「IoT と AI が牽

[6] １つの製品を開発する際に、仕様決定、設計、製造（ソフトウェアの場合はコーディング）、テストといった開発工程を１本の流れとして進める方法（ウォーターフォール型開発）と対比される非ウォーターフォール型開発手法の一つで、仕様が決定した部分から小分けに設計・製造し、その動作状況を随時確認しながら開発を進めていく手法。

引する時代の展望と人材の育成・活用のあり方」というテーマで開催されました。IPA は「IoT、AI、ビッグデータの時代に向けた IPA／SEC の取組み」というテーマで講演を行いました。

IPA では、今後も IoT 時代に向けた取組みとその普及活動を継続していきます。

「第 7 回 SMA オープンセミナー」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.skill.or.jp/activities/files1606/7th-os-info.pdf

6．SEC セミナー開催報告（6 月）および開催案内（7 月）

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

6 月は、次の日程で実施しました。

・IoT 時代に向けた組込みソフトウェア安全性・信頼性向上活動の紹介
～2015 年度 製品・制御システム高信頼化部会成果報告～
（6 月 27 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160627.html

・IoT 時代のセーフティ・セキュリティに関する『つながる世界の開発指針』をひも解く！
（6 月 27 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160627-02.html

7 月は、次の日程で開催を予定しています。

・共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～
（7 月 11 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160711.html

・事例から学ぶ IT サービスの高信頼化へのアプローチ
～システム障害事例分析から導出した教訓共有のすすめ（演習付）～
（7 月 22 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160722.html

・上流工程での合意形成を目指して
～非機能要件と外部設計の合意形成のための手法とコツ～
（7 月 27 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160727.html

・第 2 回定量的マネジメントセミナー
（7 月 29 日）
http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160729.html

Ⅳ. 国際標準の推進

1．「活用が広がる『共通語彙基盤（IMI)』」の開催報告

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：田代）

IPA は 6 月 3 日（金）に、東京グランドホテル（東京都港区）で共通語彙基盤を紹介するイベント「活用が広がる『共通語彙基盤（IMI)』」を開催しました。

「共通語彙基盤(IMI)」の推進は、平成 25 年 6 月 14 日「世界最先端 IT 国家創造宣言」当初から工程のひとつに掲げられてきました。「経済産業省版法人ポータル」をはじめ、政府や自治体による共通語彙基盤の利活用が徐々に始まるとともに、「公共データの民間開放」と「利便性の高い電子行政サービスの提供」における共通語彙基盤への期待も一層高まってきました。

本イベントでは、共通語彙基盤の活用例として、「経済産業省版法人ポータル」のデモンストレーションや統計情報のオープンデータ化、先進自治体の取り組み等を紹介しました。さらに、共通語彙基盤を利用したアプリケーションによるデータの利活用に至る一連のシナリオのデモンストレーションを行い、データの作成・構成に係る具体的な作業や効果的に利用するためのポイントなどについて解説を行いました。

当日は長時間のイベントにも係らず、100 名を超える参加者の大半が開始から終了までご聴講いただき、多くのご質問やご意見をいただく事が出来ました。

本イベントにご参加できなかった方、デモの様子をもう一度ご覧になりたい方は、講演ごとに映像を公開しましたのでご覧ください。

「活用が広がる「共通語彙基盤（IMI)」」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://goikiban.ipa.go.jp/node1212

Ⅳ. IT 人材育成

1．「i コンピテンシ ディクショナリ 2016」などを公開

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：秋元）

IPA は、6 月 6 日（月)、組織内の人材育成に活用できるツールとして提供している「i コンピテンシ ディクショナリ（iCD)」を拡充した最新版「iCD2016」を公開し、あわせて iCD をウェブ上から利用できる「iCD 活用システム」をバージョンアップしました。さらに、iCD 利用者向けのポータルウェブサイト「iCD オフィシャルサイト」を新たに公開しました。

「iCD2016」では、「セキュリティテスト」や「エデュケーション（教育)」に関するタスクの追加など最新版への対応や、研修事業者や資格試験を運営する資格実施団体などが提供する研修・資格情報を新たに追加し、iCD が提供するタスクやスキルとの関連付けを行いました。

また、「iCD 活用システム」では、「iCD2016」で追加した研修・資格情報を活用できる「研修・書籍、資格情報管理機能」を追加するなど、新たな機能が利用可能となりました。

さらに、iCD の導入を検討中の方を含め、より一層の関心と理解を深めていただけるよう、iCD 初心者向けの説明や活用方法の掲載をはじめ、iCD を実際に活用している企業の事例紹介など最新情報を提供する「iCD オフィシャルサイト」を公開いたしました。

IPA では、本公開を通じて、企業をはじめ産業界全体において、iCD の活用がますます進み、経営戦略などの目的に応じた効果的・効率的な人材育成が促進されることを期待しています。

「iCD2016」、「iCD 活用システム」、「iCD オフィシャルサイト」の詳細については、次の URL をご覧ください。

i コンピテンシ ディクショナリ 2016
http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/icd.html

i コンピテンシ ディクショナリ活用システム
http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/system.html

iCD オフィシャルサイト
https://icd.ipa.go.jp

２．ITPEC 試験問題選定会議の開催

（担当理事（本部長）：川浦、担当本部長補佐：小川）

IPA は、6 月 1 日（水）～6 月 3 日（金）にマンダレー（ミャンマー）で「ITPEC 試験問題選定会議」を開催しました。

本会議には、ITPEC 参加 7 ヵ国の試験実施機関の試験委員など 26 名が参加し、「第 22 回アジア共通統一試験」（10 月 16 日（日）実施予定）で使用する試験問題の精査・選定などを行いました。アジア共通統一試験は、ITPEC の参加各国が、アジアにおける質の高い IT 人材の確保や流動化を図ることを目的として年 2 回実施しています。

本会議の検討の結果、次回試験では各国で作成した試験問題から次の通り出題されることになりました。

・基本情報技術者試験相当：午前試験全 80 問中 20 問、午後試験全 8 問中 8 問
・応用情報技術者試験相当：午前試験全 80 問中 30 問、午後試験全 7 問中 5 問

IPA は、ITPEC 参加各国が質の高い試験問題を作成できるよう、今後も協力していきます。

３．平成 28 年度春期情報処理技術者試験（応用情報技術者試験、高度試験）の合格発表について

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：髙橋）

IPA 情報処理技術者試験センターは、平成 28 年度春期情報処理技術者試験（経済産業省所管、4 月 18 日（日）実施）のうち、応用情報技術者試験と高度試験の合格者を発表しました。

各区分の応募者数、受験者数、合格者数、合格率は以下のとおりです。

		応募者数	受験者数	合格者数	合格率（%）
応用情報技術者試験		44,102	28,229	5,801	20.5
高度試験					
	プロジェクトマネージャ試験	16,173	10,263	1,491	14.5
	データベーススペシャリスト試験	13,980	9,238	1,620	17.5
	エンベデッドシステムスペシャリスト試験	4,205	3,148	543	17.2
	情報セキュリティスペシャリスト試験	26,864	18,143	2,988	16.5
	システム監査技術者試験	3,635	2,524	360	14.3

各試験区分の合格者平均年齢は以下のとおりです。

		合格者平均年齢
応用情報技術者試験		28.8 歳
高度試験		
	プロジェクトマネージャ試験	37.4 歳
	データベーススペシャリスト試験	32.4 歳
	エンベデッドシステムスペシャリスト試験	34.2 歳
	情報セキュリティスペシャリスト試験	34.1 歳
	システム監査技術者試験	41.2 歳

応募者・受験者・合格者の推移等、統計に関する詳しい情報は、次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html

４．平成 28 年度秋期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を 7 月 11 日（月）から開始

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：髙橋）

IPA は、10 月 16 日（日）に実施する平成 28 年度秋期情報処理技術者試験（所管：経済産業省）の受験申込みの受付を 7 月 11 日（月）から開始します。受験の申込みは、郵便窓口やインターネットで行えます。申込方法によって締切日時が異なりますので注意してください。

■ 個人申込み

願書郵送申込み　：　7 月 11 日（月）　～　8 月 8 日（月）　消印有効

インターネット申込み　：　7 月 11 日（月）10 時　～　8 月 19 日（金）20 時

■ 団体経由申込み

7 月 11 日（月）　～　8 月 8 日（月）

※申込方法によって、締切時間が異なります。

実施する試験区分など、平成 28 年度秋期情報処理技術者試験の詳細については次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_02annai/h28aki_exam.html

ｉパス（IT パスポート試験）については、CBT 方式にて随時試験実施中です。申込方法などの詳細については次の URL をご覧ください。

https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html

問合せ先　独立行政法人　情報処理推進機構
戦略企画部 企画・調査Ｇ　笛木・中山
〒113-6591
東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
文京グリーンコートセンターオフィス
TEL：03-5978-7503
E-mail：spd-plan@ipa.go.jp